

**MOVE the NEXT** .....動かす、次代。広げる、未来。>

# JIMHニュース

## 第7号

巻頭言

第14回定時総会

2022年度事業計画

新任のご紹介

2021年度第6回 機種別部会・全体勉強会

2022年度第1回 機種別部会・全体勉強会

新入会員企業紹介

## 巻頭言

# サプライチェーン混乱の時代の中で 社会貢献と業界発展を目指し前進を



一般社団法人 日本物流システム機器協会  
会長 下代 博

コロナ禍により停滞していた社会活動や経済が、やっと回復へ向けて動き始めようとした矢先、2月24日にロシアのウクライナ侵攻が始まり4か月が経過しました。しかし、未だ終結の見通しが立たずに世界経済への影響が甚大なものになりつつあります。中国のゼロコロナ政策も結果が見通せず、サプライチェーンの混乱の大きな要因となっており、成長の下振れが懸念されています。

## 9月の国際物流展へ向け一致団結

こうした中ではありますが、2022年度における当協会の事業は、前年2021年度にも増して、withコロナの認識を持ちつつ、より一層活発に計画を実践、展開していきたいと考えています。

なかでも本年9月、国際物流総合展が4年ぶりに東京ビッグサイトで開催される予定です。当協会も主催7団体の一つとして参画しており、リアルに開催される本展示会を成功へ導くために協力していきたいと考えています。会員企業の皆様におかれましても、物流システム機器の進化を、久しぶりにご来場される方々にご覧いただく機会ととらえて、ご参加いただければと思います。

## FA・物流、両シーンで市場拡大を継続

我々が構成する物流システム機器業界は、中長期的にまだまだ発展していく業界だと確信しております。これは、労働人口の減少や物流の小口化を背景にしており、日本だけでなく米国、欧州はもとより中国やアジア諸国、さらに世界規模で市場拡大が続いていくと考えているからです。

ご存知の通り、もともと物流システム機器は製造現場での部品や製品の保管・搬送などで導入され、産業を支えてきました。現在は、ネット通販の拡大などで物流センターでの需要拡大が目立ちますが、製造現場においても人手不足は大きな課題となっています。

一時は海外への生産移転の流れもあって国内工場のマテハン投資は少し停滞していた感もありましたが、このところは国内回帰もあり、マテハンも含めて国内工場の生産性を一段高いレベルに進化させようという企業マインドが拡大していると感じています。

## 学生から「働きたい」と選ばれる業界へ

当協会会員数は現在、正会員53社、賛助会員41社となっております。年々増加しており、2019年度から2021年度のわずか3年間でしかもコロナ禍の中で、26社の企業に新規入会していただいております。当業界に対する注目度の表れかとも思われます。入会されました会員企業の皆様には、御礼申し上げます。

一方で、当業界の課題も認識しております。重要な課題の一つは、人材の確保です。人手不足などにより物流システム機器の需要は右肩上がりです。しかし最近では、企業の規模や知名度だけで選択するのではなく「サステナブルな社会の実現に貢献できる産業で働きたい」という若者が増え、そういった若者が当業界を選んでくれるケースが少しずつ増えていると聞きます。より多くの学生や若い人たちに「将来が明るい業界」と理解してもらい、就職先として選んでもらえるよう積極的に情報発信していければと思います。

JIMHはコロナ禍以降の世界においても、社会・産業界への貢献と当業界の発展という目標に向けて、サステナブルな取り組みを継続してまいりたいと決意しておりますので、皆様の変わらぬご支援を賜いますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上。

## 第14回定時総会

# 3年ぶりに会員が一堂に会し開催 2022年度の事業計画案を承認



## 正会員が過半数を超え総会成立

5月25日(水)、東京會館大手町LEVEL21(東京都千代田区)において、第14回定時総会を開催しました。

総会は冒頭、横田事務局長が登壇し、直近の第12回および第13回定時総会はコロナ禍の影響によりWEB開催としたため、今回が3年ぶりの対面開催である旨アナウンスされ、続いて定足数確認で正会員の出席者数が過半数を超え総会の成立を確認、定款に基づき協会の下代会長を議長として議事が開始されました。

選任された下代議長は自身の挨拶に続けて、議事録署名人として(株)オカムラ上席執行役員の田尻誠氏を指名、会場での承認を経た後、議案審議に移りました。



議事進行にあたる下代議長

## 2021年度事業報告、2022年度事業計画を審議

■第1号議案：『2021年度事業報告書および収支決算報告に関する件』については、事務局より、2021年度の事業報告、部会・委員会活動について説明がなされ、続いて収支決算報告書の貸借対照表、収支決算書の内容説明がなされました。

また、監事作成の監査結果が適法かつ正確に処理されていることを認めた旨の監査報告書、および外部監査として顧問税理士廣野先生作成の監査結果が適法か

つ正確であることの証明書についての報告がなされ、拍手をもって異議なく承認されました。

■第2号議案：『2022年度事業計画書(案)および収支予算(案)に関する件』については、事務局より、2022年度事業計画書(案)について説明がなされました。理事会・運営幹事会の開催、新年賀詞交歓会の開催、会員企業勉強会・施設見学会の開催、定例勉強会、行政施策に関わる勉強会、教育研修事業等について例年通りの開催を計画している旨の説明に続き、部会・委員会関係の報告では、運営幹事会の幹事長に続き、各部会の部会長および各委員会の委員長から、個々の活動計画について具体的な報告がなされました。

続いて、2022年度の収支予算(案)について説明がなされ、異議なく承認されました。

■第3号議案：『役員任期満了に伴う改選および会員代表者変更』については、事務局より、今年度が監事の任期満了に伴う改選の年であること、また、理事2名の任期途中の辞任に伴う新任理事2名の報告がなされ、異議なく承認されました。



全議案が承認され終了

\*

議案審議案件が終了した後、事務局より新規入会(正会員×4社、賛助会員×5社)、退会および代表者変更について報告がなされ、定時総会の全プログラムが終了となりました。



# アフターコロナの情勢を慎重に見据えつつ リアルな活動計画を着々と準備・推進

## 2022年度事業計画書に基づく活動計画概要

- 事業関係(大会、講演会、展示会、研究・研修会 他)
- (1)新年賀詞交歓会の開催……2023年1月24日(火)
  - (2)会員企業勉強会や施設見学会の開催(機種別委員会企画)……2022年度も設備系委員会と情報系委員会との2委員会体制とし、WEBも活用した会員企業勉強会や施設見学会等の開催を企画。
  - (3)定例勉強会の開催(機種別部会全体会議時に開催)……6回/年開催予定
  - (4)行政施策に関する勉強会の開催
  - (5)教育・研修事業
  - (6)展示会事業……国際物流総合展 2022に出展。
  - (7)海外交流……グローバル部会にて海外交流を推進。
  - (8)国内関連機関・団体との交流及び協力
    - ①経済産業省、国土交通省等の行政施策への支援と企画を推進
    - ②国内関連団体との共催事業の企画・検討
  - (9)情報・資料・出版物の提供……2022年度も継続してJIMH 広報誌「JIMHニュース」を発刊。月刊誌「マテリアルフロー」内にJIMHニュースを掲載。

## 部会・委員会関係

- (1)運営幹事会……物流システム機器業界が抱える共通の課題を解決するため戦略・戦術を企画・立案・推進。引き続き4ヵ年中期運営計画7つの中期ビジョンを具体的に推進。
- (2)グローバル部会……2022年9月開催予定の『国際物流総合展 2022』に合わせ日本がホスト国として「4極会議」および「日中物流技術交流会」を開催。
- (3)技術部会……先端技術情報の収集のため、ロボット革命・産業IoTイニシアティブ協議会(RRI)や5G利活用型社会デザイン推進コンソーシアム(5G-SDC)の活動報告会における情報を会員へ提供。

- (4)機種別部会 全体会議……機種別部会では運営幹事会や部会・委員会活動報告後、行政外郭団体や業界のオピニオンリーダーを招いて勉強会を6回/年開催予定。
- (5)統計部会……2022年度も(公社)日本ロジスティクスシステム協会(JILS)と協力のうえ「2021年度物流システム機器生産出荷統計」ならびに「2022年度物流システム機器受注調査レポート」(四半期毎)を取りまとめ発行。また、JIMHとして「2021年版マテハンシステム統計調査報告書」を作成・発行。
- (6)教育・研修部会「マテハン塾」……第12期マテハン塾はこれまで同様実施。マテハンシステム管理士の知名度向上のため周知活動を行う。
- (7)広報委員会……JIMH 広報誌の企画、編集、発行。JIMH の国内外の活動を、タイムリーかつ確実・正確に伝えるツールとしてJIMH広報誌「JIMHニュース」の発行を継続し年3回発行を目指す。JIMHホームページの掲載内容の検討と操作性の改善。
- (8)設備系委員会……新型コロナウイルスの感染状況を注視しつつ、会員企業様の製品紹介および、工場・物流施設見学会&研修会の企画・実施(年2回実施を目標)。会員企業への情報提供。
- (9)情報系委員会……会員企業様の製品紹介および見学会の企画・実施。IoTおよびAI関連の勉強会を実施。
- (10)展示会事業推進委員会……JIMHの新たな収益事業、会員企業へのサービス提供の一環として2023年開催予定の「2023 国際ロボット展」に、国際物流総合展との兼ね合いも念頭に企画を検討。
- (11)建設業法対策ワーキンググループ(WG)……2022年度は、5月予定で国土交通省 建設業課へ「第2回要望書」を提出。その後の進捗を定期的にウォッチし、必要に応じてWGミーティングを開催、活動を継続実施。

# 新規役員ご挨拶

## 変革期迎えた物流事業へ適切なソリューションを提供

この度、日本物流システム機器協会の理事に就任いたしました大和田でございます。入社以来、物流事業を担当して参りまして、協会の活動には日頃から大変お世話になっており、改めて御礼申し上げます。現在、コロナやウクライナ情勢が、経済社会に与える影響は甚大なものがあり、まさしく未曾有の危機に直面していると言えましょう。このような先行きが不透明な情勢の中で、協会から行政や関係業界の情報を日常的に発信して頂いており、大変心強く感じております。また、物流事業も大きな変革期を迎えつつあり、お客様が抱える様々な課題に対し、適切なソリューションを提供していくことが、私どもマテハン業界共通の使命であり、SDGsへの貢献も重要な経営課題と考えております。

今後とも、会員企業の皆様方との交流を進め、協会活動に積極的に参加して参りますので、皆様方のご支援・ご協力をお願い申し上げます。



一般社団法人  
日本物流システム機器協会 理事  
トーヨーカネツ株式会社  
代表取締役社長 大和田能史

## 業界の経験・技術・英知で社会貢献

この度、日本物流システム機器協会の理事に就任いたしました橋本でございます。世界的にコロナ禍が収束の兆しをみせ始めた一方でロシアによるウクライナへの軍事侵攻が勃発し、連日現地での凄惨な状況が報道されております。業界誌での新任挨拶です。政治的な意見見解は避けさせて頂きつつも、現地で厳しい生活をされている方々への想いを馳せつつ一日も早い戦争終結を願っております。さて、こういった状況下で先行きの不透明感が一向に改善されていない中でSDGs、脱炭素、働き方改革、感染症対策に起因する非接触・自動化推進等の社会や価値観の変化、様々な技術革新は否応なく私共の生活やお客様の事業活動に適応を求めています。物流システム機器業界が長年培ってきた経験・技術・英知を社会の課題解決に活かす時勢であるとの認識のもと、協会活動に微力ながら取組む所存です。皆様のご支援を賜りたく宜しくお願い申し上げます。



一般社団法人  
日本物流システム機器協会 理事  
三機工業株式会社 執行役員  
プラント設備事業本部副事業部長  
橋本 直樹

## コミュニケーション図り課題解決に取り組む

この度、日本物流システム機器協会の監事を拝命いたしました岡本でございます。先日開催されました定時総会・理事会では、久しぶりに関係各社様のお元気なお姿を拝見し、何やらほっとし、そして当協会会員企業として業界全体の繁栄に寄与したいという思いを強く致しました。そのためには、皆様方と切磋琢磨しながら、商品、技術を創出し、社会課題の解決につながる革新的な価値創造につなげていきたいと思っております。まだまだ予期せぬ事が発生し、難しい舵取りが強いられると思われませんが、これからの活動範囲の広がり期待しつつ、課題を一つひとつ着実に克服していく事が肝要と考えます。当協会におきましても、監事として、役員の皆様とコミュニケーションを図りながら、課題解決の一助となれるよう取り組んで参ります。皆様方の今後のご指導とご協力をお願い申し上げます。



一般社団法人  
日本物流システム機器協会 監事  
株式会社橋本チエイン  
マテハン事業統括 上席執行役員  
岡本 雅文



## 第14回 定時総会・懇親会

# 経産・国交両省から来賓を迎え、 万全のコロナ対策下で3年ぶりに結束を確認



### 定時総会の無事終了を受け久しぶりの和やかな宴

5月25日(水)、東京會館大手町LEVEL21（東京都千代田区）において開催された第14回定時総会（p2参照）のプログラム終了後、別室にて行われた第58回理事會に続き、懇親会が催されました。

懇親会では冒頭、代表理事の下代会長が登壇し挨拶されました。

「会長を拝命して2年目ですが、このように皆様と直接お会いできること嬉しく思います。先ほど第14回定時総会を滞りなく終了したことをご報告いたします。コロナ禍で社会活動が停滞して、ようやく経済も回復基調に向かおうか



JIMH下代会長

というタイミングでの、ロシアのウクライナ進行、ゼロコロナ政策に起因する中国サプライチェーンの混乱という昨今ですが、当協会ではまずウィズ・コロナを意識しつつ、2022年度の事業を活発に行っていきたいと考えています。

また本日この会場には経済産業省、国土交通省からも多くのご列席をいただいておりますことに感謝を申し上げますと共に、引き続きの協会へのご理解ご支援をお願いしたいと思います。

現時点の協会会員数は、正会員が53社、賛助会員が41社となっており、この数は年々増加しており、2019～2021年の3年間で、コロナ禍にもかかわらず26社の新規加入がありました。これはとりもなおさず当業界に対する期待の表れではないかと認識しており、また、新規入会いただいた企業の皆様には御礼申し上げます」

＊

会長挨拶に続いては、来賓代表挨拶で経産省製造産業局産業機械課の安田篤課長が登壇し、以下の要旨で

スピーチされました。

「新型コロナでの国民生活、経済への影響がいまだ残る環境ですが、一方で水際措置の緩和、本格的な経済再開の動きに向けて動き出しつつあります。産業界の皆様にはこれまでのテレワーク、時差出勤等、様々なご協力をいただいたことに御礼申し上げます。



経産省安田課長

ここへ来て、ロシアによるウクライナ侵略で世界は激動の時代を迎え、世界はさらなる分断が進むと懸念されています。コロナ禍でサプライチェーンにも混乱が生じ、世界経済のデカップリングが懸念されており、足元の状況は悪化の見通しといえます。皆様の取引先でも原材料、小麦価格の高騰、半導体不足等々、大きな影響を受けているのではないのでしょうか。

経済産業省としてはこうした状況に対し、中小事業者向けの資金繰りの支援、価格転嫁を支援する政策を打ち出しております。また世界の政策動向に目を向けると、アメリカ、中国ははじめとする主要国・地域が戦略物資の確保の産業政策を出してきており、こうした状況に向けては、経済と安全保障の不可分な領域での対応とならざるを得ません。産業界の皆様と連携しながら、国民生活、経済活動に向け、先端的な医療技術の開発支援等を推進したいと考えています。

貴協会におかれましては、モノの移動を効率的に行う物流のインフラ技術を通じて、物流機器、MH機器の製造のみならず、工場全体の設計・自動化に向けたコンサルタント含め、製造業の現場自動化、省人化、生産性向上といった側面で大きくまた幅広く貢献いただいているものと認識しています。

一方、人口減少基調の社会で人手不足の中、自動化ニーズの拡大といった消費行動の変化に伴い、物流事業者のみならず自動車や半導体等製造業の平常時の生

産ライン等においても自動化の需要は増加しています。そうした状況に向けてDXの発展に向けた取り組みにも期待をしています。

貴協会では日本、アメリカ、欧州、中国の四極での協議を通じて情報交換行っておられ、こういった世界情勢では、グローバルな連携を進め、正確なニーズを捉えて市場展開策を進めていくためのやり方だと感じます。さらに、人材育成においても、唯一のマテリアルハンドリング機器に関する専門講座であるマテハン塾を主宰され、効果的効率的なシステムを構築できる人材を輩出する取り組みも意義深いものです。

混乱する世界ですが、マテハン業界、物流業界の必要性を踏まえ、引き続き業界発展に寄与されるよう、傾注いただければ幸いです。

続いては、国土交通省総合政策局物流政策課の平澤崇裕課長が以下の主旨で来賓挨拶に登壇しました。

「物流は、我が国の経済活動そして国民生活を支える大事な社会インフラです。しかし、昨今は担い手不足、カーボンニュートラルへの対応をはじめとして様々な課題に直面しています。中でも担い手不足については深刻で、トラックドライバーは他産業と比べて年間の労働時間が際立って高い一方で、賃金は約1～2割も低く、そうしたことから年間有効求人倍率は約2倍に止まっています。その上、年齢構成も高齢層が中心で、例えば内航海運は50代以上の方が半数と、高齢化が深刻です。

いずれにしても働き方改革を通じての労働環境の整備が急務であり、国交省としては、昨年閣議決定された総合物流施策大綱についても、物流DXの取り組みなど、荷主物流事業者が一体となって、競争領域ではなく協調領域で手を結ぶことで、デジタル化、標準化といった課題に取り組み、進めている状況です。

貴協会の皆様におかれましては、物流現場における省力化自動化の取り組みをはじめ、物流に付帯する様々な課題、解決にご尽力いただいていると認識しており、こうした役割の重要性は、今後ますます大きくなることは確実です。皆様には引き続き、ご支援ご協力をお願い致します」



国交省平澤課長

### 恒例の右肩上がり乾杯も3年ぶり復活

来賓挨拶に続いては、乾杯の発声で大庫副会長が登壇し、以下のように述べました。

「当協会の懇親会では実に3年ぶりの乾杯ですので、やや緊張しています（笑）。私の会社でもこの3年はコロナ禍で朝礼もなくなり、人前で話をする機会が極端に少なくなっていましたので、今、どのくらいの声の大きさを話すべきなのかわからずに戸惑ってしまいます。

とはいえ、私自身が元来アナログ人間ですので、WEB会議だけではうまく話が進まないと感じていて、今日、皆さんのお顔を拝見しながらマイク前に立てることにはこの上なく嬉しさを感じています。

ではいよいよ当協会のオリジナルの右肩上がり乾杯をやらせていただきます。これまでは大抵『受注拡大目指して』と発声していたのですが、皆さんのお話を聞く限りでは、今年は『受注以上に部品の確保を』というのが相応しいのかもしれません（笑）。

本日は、当協会の益々の発展と、お集まりの皆様の健康勝を祈念すると共に、半導体および関連部品の確保が右肩上がりとなりますように、乾杯したいと思います」

＊

乾杯後は久しぶりの和やかな懇談の時間となり、会員同士の交流が深められました。途中のイベントとして新入会員企業の自己紹介タイムがあり、中締めには村田副会長が登壇しました。

「本日は誠にありがとうございました。私も大庫副会長の右肩上がりに倣って、中締めは、一つ目上がりの三本締めで参りたいと思います。はじめは人差し指で、次に中指、次に指三本で、最後に手のひらで、と徐々に大きくしていく締めのやり方で末広がりの意味合いがあるそうです。では皆様、お手を拝借……」

小気味よい中締めとなった後に、この日の懇親会は無事に終了となりました。



JIMH大庫副会長



JIMH村田副会長



## 第6回 機種別部会・全体勉強会

# 日本ユニシス改めBIPROGYでリスタート、 ハイパーウェアハウスで連携するGROUND



## 2企業コラボで次世代物流施設について講演

2021年度の第6回機種別部会・委員会が3月15日(火)に銀座ユニーク貸会議室(東京都中央区)にて開催されました。会は冒頭、横田事務局長が登壇し、各種報告事項の説明に続いて、全体勉強会となりました。

講演のテーマは「物流オペレーションの可視化・最適化で変わる次世代物流施設とは」で、日本ユニシス(株)とGROUND(株)より講師を迎え、冒頭は日本ユニシスサービスイノベーション事業部クロスビジネス営業部第二営業所主任の



七里綾香氏

七里綾香氏(当時)が登壇、講演概要は以下の通りです。「当社はこれまで60年の歴史があり、日本ユニシスの社名で長く親しまれてきましたが、4月1日から今後のグローバル展開をにらんでBIPROGY(株)に変更します。社名変更にあたり、中期計画と別にVision2030を定め、デジタルコモンズというコンセプトを掲げました。これは、皆でデジタルに共有材を作りあげ、ITの力で幸せな社会を目指すイメージといえます。

当社は物流関連の顧客も多く、物流事業者、流通・小売から製造業まで、基幹システムから電子化、ペーパレス化、クラウドサービスと幅広い実績があります。

ロジスティクス戦略ビジョンについて触れると、当社はこれまで提供して来た実績をもとに、ITを活用してサプライチェーン全体の物流情報を可視化することで物流DXの実現を標榜しています。具体的には、パッケージ提供のみならず、新規事業の創出までを視野に入れているのが特徴で、既存のWMS導入やTMS導入から新しい取り組みにまで移行しつつ、倉庫業務の可視化・最適化というフェーズに至ったところでGROUNDとの共同事業に発展します。

当社とGROUNDは2020年6月の資本業務提携を

経て共同事業を推進しており、ロボット事業やソリューション事業等を手掛ける同社の、ロボットやAIの先進技術を活かして、ソフトウェアの可視化・最適化に資するシステムで一緒にしています」

＊

七里氏の講演を受け、GROUNDソリューション営業本部ソリューション営業企画部兼ソリューション営業部部長品川竜介氏が登壇、講演の概要は以下の通りです。

「当社のコアコンピタンスはハードウェアロボティクス、AIソフトウェア、オペレーションの3つで、これらを提供することで、次世代物流の構築をお手伝いしています。具体的には、物流施設の管理者の意思決定を支援するソフトウェア、作業者の支援をするロボティクスを中心にテクノロジーと共に進化する次世代型物流施設、ハイパーウェアハウスの構築を標榜しています。

従来の倉庫にはピッキング工程全体の作業効率や進捗を一望できる仕組みがなく非効率で、これを横串で情報を吸い上げ一元管理するWESという仕組みが数年前から欧米で勃興しており、この分野に我々が日本で先行進出するソリューションがGWESです。

提供中のGWESモジュールは3カテゴリで合計7つです。基本インフラの部分で、DC(データコネクタ)とME(マップエディタ)、次いで可視化分析を担うのがPA(プログレスアナライザ)、WA(ワークロードアナライザ)、IA(インベントリアナライザ)で、各フロア各工程の作業進捗や作業量、在庫状況を可視化します。3番目がRO(ルーティングオプティマイザ)とSO(スロットティングオプティマイザ)で、オペレーションにおけるコスト最適化を支援します。

その後再び七里氏が登壇、質疑応答を経て勉強会を終了、機種別委員会を経て、閉会・解散となりました。



品川竜介氏

## 第1回 機種別部会・全体勉強会

# 棚搬送ロボットのNEXTフェーズ 高さ方向の弱点克服したPopPickとは



## NIKE専用センター採用で知られるGeek+

2022年度の第1回機種別部会・委員会が5月12日(木)に銀座ユニーク貸会議室(東京都中央区)にて開催されました。会は冒頭、横田事務局長による各種報告事項の説明に続いて、全体勉強会が開催されました。講演のテーマは「棚搬送ロボットの最新アップデート『PopPick』」で、(株)ギークプラスの代表取締役である加藤大和氏が登壇、講演の概要は以下の通りです。

＊

「棚搬送型ロボットとは、棚の下にAGVが潜り込んで持ち上げ、作業者のところまで運び、作業者は運ばれて来た商品を格納したりピッキングしたりするソリューションで、人の歩行を低減する仕組みです。例えばアパレル倉庫のピッキングの場合、ロボットが運び込んできた棚から商品を取り出しハンディスキャナでスキャン、DASのランプが光った位置へ商品入れる繰り返しで、ワーキングステーションでは1時間当たり250/hのペースでピッキングを進めます。

AGVは上下にカメラを持ち、地面に貼ったQRコードを下向きカメラが認識して自機の座標を特定し、上向きカメラが自機の持ち上げている棚下部のQRを認識して動いています。既に日本企業でも2,500台稼働中で、全世界では中国から欧米まで2万台が普及し、拡大展開中です。

こうした仕組みの先駆であるamazonはじめ世界中の倉庫で運用されており、その実績が棚搬送型ロボットの実用性の証明になっていると言えますが、一方で基本的な弱点もあります。それは、棚の高さより上の空間が全く使えないことです。上部空間を活用するには、自動倉庫等の大掛かりなストレージを構築するしかありませんでした。そうした課題をクリアできる当社の新製品がPopPickです

従来同様、棚の下に潜り込んで持ち上げて搬送しま

すが、棚の高さが圧倒的に高い3.7mで、この設計により保管容積は劇的に向上しています。この高さは人が手を伸ばしても届かないので、専用のワークステーションには、クレーン機構を備えた仕組みでコンテナを側面から引き出してピッカーの前に揃えるシステムとしています。3.7mの高さは日本市場を想定したもので、防火シャッター間口高4.0mが一般的な日本の倉庫の区画間を自在に通過可能なギリギリの高さ設計です。

また、従来のワークステーション現場ではピッカーが手を伸ばすエリアは一つの棚に限定されていましたが、PopPickでは2つのレーンから運ばれることでスループットを大幅に向上させ、作業者さえ追従できれば従来比2倍の生産性も夢ではありません。日本発売は夏以降を予定しており、先駆けて8月には相模原の当社センターで稼働デモをご覧いただける予定です。

オリコン同士のピッチが2cmと狭い点も特徴で、高さを活かしたコンテナベースのAGVで、両サイドからアームを伸ばしてコンテナ引き出すACRという機構も別にあり当社でもラインナップしているのですが、こちらはその機構上10～15cmのピッチが必要で、広大な施設内で展開するとトータルで巨大なスペースの差につながります。ストレージの実質的な有効活用という視点からもPopPickがリードしています。

さらに当社の新しい試みとして、相模原の施設に開設したロボット教習所「DOJO」をご紹介します。これは主にECをはじめとする荷主や3PL業者に、B2C倉庫運営どのように効率化していくかについて、一緒に現場を研修しながら実作業としてのロボットの利用方法を学べる施設で、ロボット導入の投資を回収し、人海戦術に頼ったオペレーションを上回るメリットを検証することで、ビジネスを成長させる視点を、科学的数値に基づいて共有してもらおうのが狙いです。多くの企業の皆さんに訪れていただき、確かめていただきたいと思います」



## 新入会員企業紹介

# 2022年以降当協会へ 新規入会された企業をご紹介します

### 【正会員】

#### 株式会社ギークプラス



棚搬送型ロボット「EVE」シリーズ

自動棚搬送型ロボットを展開する物流ソリューションプロバイダーです。EC・通販現場における費用対効果が高く、ピッキング生産性向上を支援して参ります。また、4月より元アッカ・インターナショナル加藤をCEOに迎え、新生Geek+としてスタート致しました。

本社住所：〒150-6026 東京都渋谷区恵比寿4丁目20番3号 恵比寿ガ－デンプレイスター 26F  
電話番号：03-5422-1420  
公式サイト：https://www.geekplus.jp/

#### 株式会社 HAI Robotics Japan



HRJテクニカルセンター

ACRシステムのスペシャリストとして「人や社会に新たな価値あるロボットを提供し続ける」というミッションのもと、ロボットの開発、トータルソリューションのご提案、導入保守運営まで、一貫したサービスを提供し、企業と社会の価値創造に貢献しています。

住所：〒354-0046 埼玉県入間郡三芳町竹間沢東4-6  
電話番号：049-265-6930  
公式サイト：https://www.haibotronics.com/jp/

#### 株式会社ユーシン精機



省スペースパレタイジングロボット「PAシリーズ」

産業用直交型ロボットを中心に工場自動化に関連する装置・システムのメーカーです。PAシリーズは、設置スペースの小型化、自由なレイアウトが可能な荷積みロボットです。多様なお客様業界における、省エネルギーで生産性の高いものづくりをサポートします。

本社住所：〒601-8205 京都市南区久世殿城町 555 番地  
電話番号：075-933-9555  
公式サイト：https://www.yupe.co.jp/

### 【賛助会員】

#### アルテック株式会社



アルテックロボティクスセンター

当社は、自律走行型の搬送ロボット、自動収納庫、自動梱包機を取り扱う産業機械の輸入商社です。機械販売だけでなく、エンジニアリングを含めたサービスを提供しております。物流・製造現場の自動化、省人化に貢献して行きます。

住所：〒104-0042 東京都中央区入船二丁目1番1号 住友入船ビル2階  
電話番号：03-5542-6760（代表）  
公式サイト：https://smart-logistics.altech.jp/

#### The Qt Company Oy

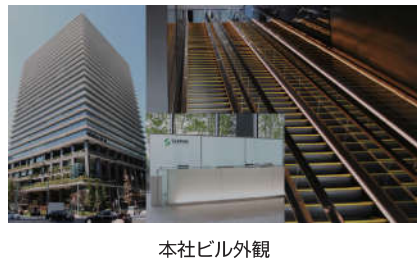


Qt(キュート)フレームワークにて実現されるUI/UXイメージ

【クロスプラットフォーム、アジャイル開発、MCUでリッチなUI/UX】スクリーンあるところにQtアリ。弊社製品QtにてUI/UX最適化と工数削減を同時に実現。特定のOSやHWに非依存、デザイナー・開発者間のワークフロー効率化、豊富なライブラリといった特長にて、マテハン業界の成長をサポート致します。

日本オフィス住所：〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-3-1 新東京ビル 4F  
お問い合わせ：japan@qt.io 電話番号：03-6264-4500  
公式サイト：https://www.qt.io/ja-jp/

#### サンワテクノス株式会社



本社ビル外観

1949年の創業以来、電機・電子・機械分野の最新製品を融合させた製品販売事業、AGV・AMRを活用したソリューション事業、ものづくりを支えるエンジニアリング事業、サプライチェーンマネジメントをご提案する独立系のグローバル技術商社でございます。

本社住所：〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1（東京スクエアガーデン 18F）  
電話番号：03-5202-4011（代表）  
公式サイト：https://www.sunwa.co.jp

## ご案内

# 2022年度『第12期マテハン塾』受講生募集中！

### ・国内唯一のマテハン専門講座

【マテハンシステム管理士1種・2種（※1）】の資格取得が可能 （※1）当協会（JIMH）認定の民間資格です

### ・目的・対象

第一線で活躍できる人材の育成、マテハンシステム管理士の養成

マテハンの機能をフルに活用した物流センターの企画・構築・提案ができる人材を育成します。

### ・物流センター構築の企画・提案を業務とする、営業およびエンジニアの方

### ・マテハン製品を拡販するためにマテハンのスキルを高めたい方

### ・マテハンの商品開発、市場開発を目指す方

### ・物流センターを運営される方で、マテハン技術を身につけたい方

### ・コース・特徴



発表会風景

|        |       |                                                                                                                                          |
|--------|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 本講座    | 通期コース | <b>72時間以上 【総合学習、実践スキルアップ】</b><br>座学の他、施設見学、グループワーキングなどを通じて、マテハンシステム管理士1種取得を目指します。                                                        |
|        | 前期コース | <b>30時間 【マテハン機器のハード、ソフトと運用学習】</b><br>座学を中心に、マテハン機器のハード、ソフト、運用について幅広く学習し、修了時にはマテハンシステム管理士補の資格（2種受験資格）の認定が受けられます。マテハンシステム管理士2種の試験合格を目指します。 |
|        | 後期コース | <b>42時間以上 【マテハンシステムの分析、計画、提案実践スキルアップ】</b><br>原則として前期コース修了者およびマテハンシステム管理士2種資格者が受講対象になります。座学の他、施設見学、グループワーキングなどを通じて、マテハンシステム管理士1種取得を目指します。 |
| 短期集中講座 |       | 本講座前期コースのエッセンスを短期集中で学びます。東京地区、大阪地区各1回開催します。修了者は管理士補の資格（2種受験資格）を取得できます。                                                                   |

詳しくはこちらから → <https://www.jimh.or.jp/2022/05/02/20220502/>

### 編集後記

■おかげ様で第7号を発行することができました。事務局や編集チームの方々に深く感謝申し上げます。  
■第14回定時総会・懇親会が対面で開催されました。協会として3年ぶり、私としても協会活動に参加させていただくようになってから初めての懇親会。皆様方と和気藹々と交流できるこうした機会が、今後も抑制されることのない状況が続くこと

を願っております。

■総会にて報告された中で目を見張ったことの一つに会員数の急増があげられます。直近の3年間で26社の新規入会があったとのこと。コロナ禍の中で4割近い増加です。これからも協会の発展には欠かせない会員増加に広報活動でお役に立てればと思います。（N）

### 一般社団法人 日本物流システム機器協会 広報誌「JIMH ニュース」第7号

2022年7月15日発行  
〒104-0032 東京都中央区八丁堀3-3-2 スギコビル2階  
TEL 03-6222-2001 FAX 03-6222-2005  
<https://www.jimh.or.jp/>

